

地域医療連携室だより vol.4

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307

地域医療連携室の仕事

～地域医療連携窓口～

ホスピタルモール中央受付向い側のカウンターで紹介患者さんをお迎えし、保険確認等の手続き後、診療科までご案内をさせていただいております。私たちがお迎えする紹介患者さんは、不安な表情をされていることが多いです。一度かかりつけ医やその他の医師の総合的な診察を経た後の専門診療や精密検査ということなので無理もないと思います。患者さんの不安を少しでも取り除けるよういつも笑顔で迎え入れ、スムーズなご案内を心がけております。

私たちの仕事は予約当日のご案内だけではなく、窓口奥の連携室内では次々に送られてくる紹介FAXの予約調整に対応しており、すみやかに予約票を送信できるよう頑張っております。

また、患者さんの診察が終われば、受診連絡票、紹介状返信、情報提供書がすみやかに紹介元の先生方の手元に届くよう悪戦苦闘の毎日であります。これからもどうぞよろしくお願ひします。

連携室発イベント開催

地域医療連携室では、紹介患者予約、転院入所支援、退院調整といった基幹業務以外に地域連携に関連するイベントも開催しています。今年度は、在宅ケア用品や介護用品、介護食を紹介する「在宅ケア見本市」をホスピタルモールで開催します。住み慣れた自分の家での病気療養や介護を手助けする最新グッズをご紹介します。

また、蒲郡市内で活躍するケアマネージャーさんと連携室スタッフとの交流会を開催します。ケアマネージャーさんとの意見交換を通じて本当に必要とされる医療、介護サービスについての相互理解を深める趣旨です。

「在宅ケア見本市」 於1F ホスピタルモール

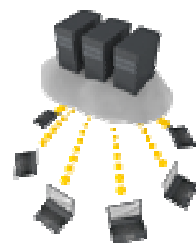
7月23日(火)、24日(水) 8時30分～13時

「ケアマネージャー交流会」 於2F 講義室

7月10日(水)、11月13日(水) 14時～15時30分

地域連携ネットワークシステム

市民病院では、来年1月の電子カルテ更新に併せ、地域連携ネットワークシステムを導入します。このシステムは、暗号化通信ネットワーク上(IPSec-VPN)に市民病院の地域連携専用のサーバを設置することにより、紹介患者や開放型病床入院患者の診療情報を参照したり、紹介状や返書のやりとりがインターネットを通じてできるようになります。詳細は今後詰めていくこととなります。地域連携ネットワークシステムについては、地域医療連携室にお聞きください。



—連携室からのお知らせ—

4月から5月に市内の医療機関を中心に連携室長の小林が訪問させていただきました。お忙しい中、時間を作っていただき、本当にありがとうございました。数多くの貴重なご意見を今後の連携室運営に生かしていきたいと思ひます。訪問は今後も継続したいと考えております。何卒よろしくお願ひします。

地域医療連携室だより vol.4

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307

蒲郡市民病院 循環器科

平成 25 年 3 月、永田医師が名古屋市立大学に帰局し、4 月からは新たに小野医師が岐阜県立多治見病院から赴任しました。現在、循環器科は 5 名と病院規模からすれば恵まれた医師数を有し、様々な循環器救急疾患に 24 時間 365 日対応できる体制を維持しており、急性心筋梗塞、急性心不全などの緊急疾患を積極的に受け入れております。また近年、循環器の分野でも専門医制度が進んでおりますが、当院には現在、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本高血圧学会高血圧指導医が在籍しており、日本循環器学会専門医研修指定施設にも認定されております。

循環器疾患は、虚血性心疾患、心不全、心臓弁膜症、心筋症、高血圧症、不整脈、肺血栓塞栓症、末梢血管疾患など多岐にわたります。その代表たる虚血性心疾患が疑われる症例に対しては、まずは外来での虚血評価を施行します。H24 年度実績では、運動負荷心電図：615 件、トレッドミル負荷検査：224 件、負荷心筋シンチ：49 件を施行し、心臓カテーテル検査の適応を評価しております。心臓カテーテル検査にて、明らかな冠動脈狭窄病変を認めた症例に対しては経皮的冠動脈形成術（PCI）を施行しますが、PCI 適応の判断に苦慮する症例に対しては、血管内エコーや、最新の診断手技である冠血流予備能比（Fractional Flow Reserve：FFR）測定を当科でも導入し、それらの評価も含め PCI 施行の適応を厳格に判断しております。結果、H24 年度の心臓カテーテル検査の総数：274 件、PCI：84 件、PCI のうち急性冠症候群（急性心筋梗塞や不安定狭心症）に対する緊急 PCI：37 件でした。その他、徐脈性不整脈に対するペースメーカー移植術や、肺血栓塞栓症ハイリスク患者に対する下大静脈フィルター留置、心筋生検なども積極的に行っております。

心不全治療では、β遮断薬治療を始めとする薬物療法を積極的に行いますが、薬物治療のみでは管理が困難な重症慢性心不全も少なくありません。そのような症例に対しては、最近注目されている、NIPPV の一方式である ASV（adaptive servo-ventilation：二相式陽圧補助換気）を導入し、自宅への退院をめざしております。

一方で、不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション治療や、重症心不全に対する心臓再同期療法など、施設基準などの制約があり当院では施行できない特殊治療や、心臓血管外科的治療に関しましては、まずは当院で可能な限り病態を評価し、症例ごとに最善の治療法を検討し、責任を持ってしかるべき高度専門医療機関へご紹介させていただきます。地域の先生方の窓口になり、患者さんにとって最高の医療をご案内させていただくのも私共の大切な使命だと考え、そのためにも、常に最新の医療を学び、積極的な学会活動も心がけております。

最後になりましたが、今後も地域の先生方としっかりと連携し、先生方から安心してご紹介いただける信頼される病院をめざし、日々努力していきたいと考えております。今後ともご指導のほど、よろしく願いいたします。

文責：石原慎二